

世界とつながろう ～防災～

学校所在府県：京都府

学校名：京都市立桃山南小学校

名前：橋本 有人

実践教科：総合的な学習の時間

指導時数：12 時間

対象学年：小学校 6 年生

対象人数：54 人（2 クラス）

1. 教師海外研修を通して感じたこと

全ての訪問地で様々なことを考えることができた、本当に素晴らしい経験になった。中でも震災復興に向けて日本人の技術がいかされている様子や、現地の学校で独自の防災教育教材づくりを進めておられることに大きな感動を覚えた。

しかし最も大きな感動は、絡まり合う電線や町をうろつく野良犬。何気ない現地の人との会話など、学ぼうと思う気持ちがあれば、どんな場面からでも学ぶことができると強く感じたことである。「全てが教材になりうる。」その思いは今回の授業実践の元になる思いとなり、どこに問題点を感じ、どのように自分のこととして捉えて、どのようなことが自分にできるか。そんなことを児童自身が考えられる授業実践を続けていきたいと考えさせてくれた。

2. カリキュラム

(1) 実践の目的・背景

ネパールでは、2年前に大きな地震が起こり大変な被害が出た。そして現在も復興に向けて様々な取り組みがなされている。そこで、その被害の様子や取り組みの工夫を知ることで「国際理解」を深めるとともに、児童が他の国や地域と自分たちの住む地域とを比べながら、自分たちに本当に必要な防災とは何なのかを考えられるような「防災教育」との複合的な単元の展開を設定した。さらにその児童の取り組みが地域に根差し、学校の取り組みの一つとして継続的に学んでいけるように、活動の大きな柱として6年生児童による独自の1年生向け防災教育教材づくりを考えた。今後はこの防災教育教材を元にしてさらに地域に合わせた防災教育を毎年進めていきたい。そして、児童自身が海外で起きている出来事から多くのことが学べるという実感を得て、今まで以上に世界の情勢や出来事に関心をもてるようになることを実践の最大の目的としたい。

(2) 授業の構成

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1 時限目 地域で災害がおこったら？ * 地域で起こりうる災害について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ● 地域のハザードマップから地震時と水害時の被害を予測する。 ● グループで気付きを交流し、被害の予測をマップ上に整理する。 ● これから調べたいことをまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 伏見区災害時ハザードマップ ● ワークシート
2 時限目 過去に起きた災害から学ぼう * 地域の特徴によって起こる災害や被害が違うことに気付く。	<ul style="list-style-type: none"> ● 阪神淡路大震災、東日本大震災、海外の地震、水害、火災など様々な災害の様子から被害や状況、地域の特徴や防災への取り組みについて学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 写真 ● 動画 ● 地図 (世界・地域)

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
3時限目 くらべてみよう(地震) * 地域と他地域、他国の地震を比べ、地域の特徴について詳しく知る。	<ul style="list-style-type: none"> ● 様々な地域や他国（ネパール中心）の地震の被害や復興への取り組みが分かる写真を比べながら、グループで気付きを交流する。 ● 地域の状況と比べて、地域のために本当に必要な知識や情報は何かを整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 写真（パワーポイント） ● ワークシート
4時限目 くらべてみよう(水害) * 地域と他地域、他国の水害を比べ、地域の特徴について詳しく知る。	<ul style="list-style-type: none"> ● 様々な地域や他国（ネパール中心）の水害の被害や復興への取り組みが分かる写真を比べながら、グループで気付きを交流する。 ● 地域の干拓の歴史や水害への備えについて知る。 ● 地域の状況と比べて、地域のために本当に必要な知識や情報は何かを整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 写真（パワーポイント） ● ワークシート
5時限目 防災教育教材ってなに？ * 調べ方や伝え方などを考えて、学習の進め方について知る。	<ul style="list-style-type: none"> ● プラス・アーツの取り組みや色々な防災教育教材について知る。 ● ネパールの学校が作った独自の防災教育教材について知る。 ● これからの学習の進め方について知る。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 写真 ● 動画 ● 奈良テレビ「ゆうドキッ」ネパール特集 ● プラス・アーツ防災教育教材プリント ● ワークシート
6・7時限目 伝えるために調べよう * 調べたいと思ったことを本やインターネットから調べ、追究する。	<ul style="list-style-type: none"> ● 図書室、地域の図書館から目的に合わせた本を借り、それぞれの知りたいことを調べる。 ● インターネットを利用して、国内外の取り組みなどを調べる。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 書籍 ● プラス・アーツ ジャパンHP
8～10時限目 つくろう 防災教育教材 * グループごとに伝えたいことを決めて、防災教材づくりをする。	<ul style="list-style-type: none"> ● グループごとに伝えたいことを決める。 ● 1年生に伝えることを意識して、防災教育教材づくりをする。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自作の防災教育教材
11時限目 はっけん ぼうさい たんけんたい * 防災教育教材をつかって、1年生に地域の災害について伝える。	<ul style="list-style-type: none"> ● 学年で12のブースを作り、1年生に防災教育教材を体験してもらう。 ● 1年生の反応や感想から、防災教育教材の改善点を見つける。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 自作の防災教育教材
12時限目 世界とつながろう * 世界の出来事（ニュース）から日本に関わることや、自分たちの生活にいかせることを探す。	<ul style="list-style-type: none"> ● ネパールの地震復興の取り組みに日本が関わっていることを知る。 ● 最近のニュースから日本や自分たちの生活に関わりのあることを探す。 ● 世界で起きている出来事をこれからどのようにとらえていけばよいか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ● 写真（パワーポイント） ● ワークシート

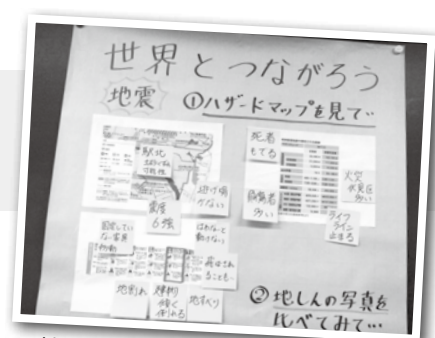
3. 授業の詳細

1 時限目：地域で災害が起こったら？

ねらい…地域で起こりうる災害について考える。

◆内容◆

- ① 地域のハザードマップから地震時と水害時の被害を予測する。
- ② グループで気付きを交流し、被害の予測をマップ上に整理する。
- ③ これから調べたいことをまとめる。



被害予測や気付きをマップ上に整理

ココがポイント

突然に海外の話ではなく、まずは自分たちの地域のことから授業を展開し、災害を身近なことから捉えられるようにする。

児童の反応

- ▶ 駅の北に土砂災害の可能性がある。
- ▶ 地域の中でも被害の大きさが違う。
- ▶ この地域は水害に非常に弱い。など

児童の感想

- ▶ 花折断層地震で想定される震度が6強で、土砂災害の起こる地域もあることに驚いた。土砂災害から逃れる方法について調べていきたいです。
- ▶ 地域は三方を水に囲まれていて、3mの浸水があると逃げ道がないので怖い。どれくらいの雨量でこんな被害が出るのかを調べてみたいです。
- ▶ 僕たちの地域と似ている地域があったら、どんな風にして災害に備えているのかを調べたいです。

◆所感◆ ハザードマップを見ることで、自分たちの地域に多くの災害被害が予測されていることに驚いている様子だった。自分たちの地域にあった避難の方法や、知識が重要であるということに気がつき、積極的に調べたいことを発表していた。児童の感想や調べたいことを優先して授業の展開を柔軟に変更していかなければならないと感じた。

2時限目：過去に起きた災害から学ぼう

ねらい…地域の特徴によって起こる災害や被害が違うことに気付く。

◆内容◆

- ① 阪神淡路大震災、東日本大震災、海外の地震、水害、火災など様々な災害の様子から被害や状況、地域の特徴や防災への取り組みについて学ぶ。

ココがポイント

過去に起きた災害から、地域の特徴によって被害や状況が変わり、防災への取り組みも異なることに気付けるようにする。

児童の反応

- ▶ 「これは日本では起きないのでは？」と海外の災害の様子と比較することで、地域の特徴が分かりやすくなっていた様子だった。

◆所感◆ 国内で起きた災害だけだと比較しにくかったと思うが、海外の災害の様子を見て、地域によって災害の起こり方や防災の方法が異なることに気付きやすくなったように思う。グローバルな視点とローカルの視点の両方をこの学習では大切にしたいと改めて感じた。

3時限目：くらべてみよう（地震）

ねらい…地域と他地域、他国の地震を比べ、地域の特徴について詳しく知る。

◆内容◆

- ① 様々な地域や他国（ネパール中心）の地震の被害や復興への取り組みが分かる写真を比べ、グループで気づきを交流する。
- ② 地域の状況と比べて、地域のために本当に必要な知識や情報は何かを整理する。

ココがポイント

日本の様々な地域と世界の地震の様子を写真で配り、それぞれがどこの写真か考えながら、楽しく気づきを交流できるようにする。

児童の反応

- ▶ 建物の建材やインフラの被害など、様々な面に注目して、地域による被害の特徴について考えることができていた。



付箋に書いた気づきを交流

◆所感◆ ネパールと比べて、日本は木材建築が多いため火災の被害が大きいことや、窓ガラスが割れることへの備えも必要であるといった気付きをもって、改めて自分たちの住む地域の危険な箇所などを考えることができていた。世界の状況と比べることで学べることが多くあると気づき始めている様子だった。

4時限目：くらべてみよう（水害）

ねらい…地域と他地域、他国の水害を比べ、地域の特徴について詳しく知る。

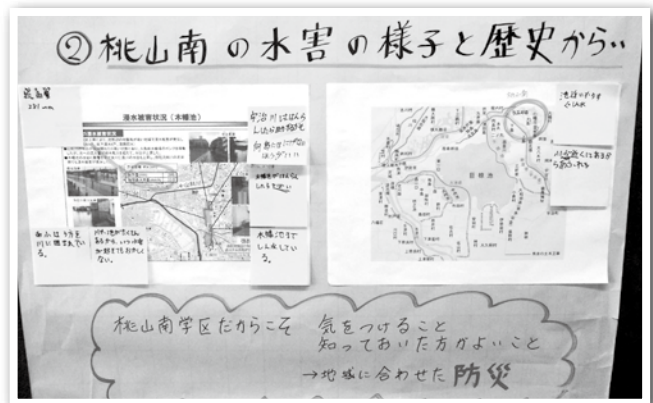
- ◆内容◆
- ① 様々な地域や他国（ネパール中心）の水害の被害や復興への取り組みが分かる写真を比べ、グループで気付きを交流する。
 - ② 地域の干拓の歴史や水害への備えについて知る。
 - ③ 地域の状況と比べて、地域のために本当に必要な知識や情報は何かを整理する。

！ココがポイント

地域の干拓の歴史など、地域の先人が行ってきた取り組みもしっかりと理解した上で、地域に必要な防災を考えられるようにする。

児童の感想

- ▶ この地域はかつて池の中にあつたと知って驚いた。水害に備えてきた歴史を知りました。
- ▶ 最近も浸水した地域があつたので驚いた。



地域の水害について気付きを交流

◆所感◆ 元々予定していたネパールの水害の様子を減らし、1時限目の児童の感想や疑問に答えられるような資料を多く用意したので、本時は「国際理解」の観点が薄れてしまったが、児童が地域のことを理解しようとし、自分たちの問題としてこの学習を受け止めてきている様子が見られてよかった。

5時限目：防災教育教材ってなに？

ねらい…調べ方や伝え方などを考えて、学習の進め方について知る。

- ◆内容◆
- ① プラス・アーツの取り組みや色々な防災教育教材について知る。
 - ② ネパールの学校が作った独自の防災教育教材について知る。
 - ③ これからの学習の進め方について知る。

！ココがポイント

プラス・アーツのホームページからダウンロードできる防災教育教材「とっさのひとこと」を実施し、その有用性を理解できるようにする。

ネパールの学校が作った防災教育教材のように、自分たちの工夫を加え、地域にぴったりの教材ができることに気付けるようにする。

児童の反応

- ▶ 防災教育教材を体験して、楽しさと学びの両方重要であることに気付いている様子だった。
- ▶ ネパールの学校が作った独自の防災教育教材に大変興味を抱き、それを作った先生方の熱意に驚いている様子だった。



防災教育教材を体験

◆所感◆ 教師海外研修で私が驚いた、ネパールの先生方がネパールに合うように作られた防災教育教材の素晴らしさを伝えることができた。次時に児童へ防災教育教材を自分たちも作ることを伝えようか悩んだが、本時で学習の進め方を考えていくことがとても自然な展開となったので、このタイミングで伝えた。

6・7 時限目：伝えるために調べよう

ねらい…調べたいと思ったことを本やインターネットから調べ、追究する。

◆内容◆

- ① 図書室、地域の図書館から目的に合わせた本を借り、それぞれの知りたいことを調べる。
- ② インターネットを利用して、国内外の取り組みなどを調べる。

！ココがポイント

1 時間目の授業で児童の意見を読んで、必要な書籍を事前に地域の図書館から借りておき活動がスムーズになるよう配慮した。

児童の反応

▶ 書籍が多く、調べているうちに、伝えなかった内容が変化したり、伝えたいことを見失ったりする児童が多くいた。

◆所感◆ 事前に調べたいことははっきりとさせておいたが、どのような防災教育教材を作ろうかとイメージしていく中で、伝えたい内容が多くなり、教材にどのように取り込んでいけばよいのか分からなくなってくる児童が多く出てしまった。もっと早くから防災教育教材について説明し、イメージをはっきりとさせてあげられていればと反省した。

8～10 時限目：つくろう 防災教育教材

ねらい…グループで伝えたいことを決め、防災教育教材づくりをする。

◆内容◆

- ① グループごとに伝えたいことを決める。
- ② 1 年生に伝えることを意識して、防災教育教材づくりをする。

児童の反応

- ▶ グループで役割分担をして、積極的に教材づくりをしていた。
- ▶ 疑問を自宅で調べてくる児童もいた。



地震 どっちにすすむの本

◆所感◆ グループで活動することで、それぞれの意見を取り入れたしっかりとした内容の教材を作ることができたように思う。

11 時限目：はっけん ぼうさい たんけんたい

ねらい…防災教育教材をつかって、1 年生に地域の災害について伝える。

◆内容◆

- ① 学年で 12 ブースを作り、1 年生に防災教材を体験してもらう。
- ② 1 年生の反応や感想から防災教育教材の改善点を見つける。

！ココがポイント

1 年生を対象としたことで、理解できるような言葉を調べ直しながら、自分たちの理解をさらに深めることができた。



楽しむ そして 学ぶ

交流学年(1年生)の感想

- ▶大雨が降った時どこに逃げるか分かりました。
- ▶ここでも大きな地震が起きるかもしれないと初めて知りました。体の守り方がわかった。

児童の感想

- ▶1年生に伝えようと何度も話をしたことで、自分も防災の大切なことを覚えられてよかったです。
- ▶少し直したいところがありますが、この教材がこれからも学校に残ってくれるのがうれしいです。
- ▶自分たちの地域に必要なことを考えられて本当によかったです。役立てたいです。
- ▶地域に関わることなので、もっとたくさんの人に知ってもらいたいと思いました。

◆所感◆ 1年生には難しい内容もあったが、交流するとどちらにも思っていた以上の学びがあった。さらに関わった先生にとっても初めて知る知識が多く、教師の啓発や研修の意味でも大変意義のある活動になった。

12 時限目：世界とつながろう

ねらい…地域で起こりうる災害について世界の出来事（ニュース）から日本に関わることや、自分たちの生活にいかせることを探す。

◆内容◆

- ① ネパールの地震復興の取り組みに日本が関わっていることを知る。
- ② 最近のニュースから日本や自分たちの生活に関わりのあることを探す。
- ③ 世界で起きている出来事をこれからどのようにとらえていけばよいか考える。

児童の感想

- ▶今まであまり気にしていなかったことを、これからは自分と関わりがあるかも？という気持ちをもって調べていきたいと思いました。
- ▶ネパールの地震のことをそんなに気にしたことはなかったけど、ニュースになっていない今もがんばっている人がいるはずだから、自分で調べていきたいと思いました。
- ▶これからニュースで言っていることを、自分なら…と考えていきたいです。

4. 成果

今回の取り組みを通して、児童が何気ないことも自分事として感じたり、考えたりできるようになればという思いをもってきたが、複数の児童が最近ニュースになっていた「エルサレム」の問題について質問してきたり、自主学習ノートに海外の出来事についてまとめてきたりするようになった。今回の授業では12時限目「世界とつながろう」がなくても単元として成立していたと思うが、これを本単元のタイトルとし、最後のまとめとして1時間を使って児童に考える時間を取ったことは大きな意味があったと思う。今後も児童の考え方に変容があるような授業実践を目指していきたいと考えている。

5. 課題

ネパールは大変魅力的な国だった。今回の授業実践ではできなかったことや伝えきれなかったことがまだまだある。カースト制度や障害者に関わる人権問題などの解決法を考える授業や、宗教や文化的な魅力などを知っていく授業など伝えたいことがたくさんある。持続可能な社会発展のために児童がより多くの問題や魅力に気付いていけるような授業をさらに考えていくことがこれからの課題である。

参考資料

- ・参考文献 「そのときどうするサバイバル読本」 消防庁著 等多数
- ・参考ホームページ URL NPO法人プラス・アーツ <http://www.plus-arts.net/>
京都市情報館京都市防災マップ <http://www.city.kyoto.lg.jp/gyozai/page/>